

園芸春秋

第423号

9

2000

発行所 (二部定価540円) 千606 0821 京都市左京区下鴨
半木町 京都府立植物園内
財団法人
京都園芸倶楽部
電話 (075) 751-1111 (直通)
振替口座 (2125) 0116 公金
発行責任者 渡辺亮太郎

●平成十二年度の会費受付中
年会費 五、〇〇〇円
なお、十一年度会費未納の方は併せてお送り下さい。
振替口座は000977(元金) (財) 京都園芸倶楽部
払込金受領書を以て当倶楽部の領収書に代えますので、大切に保
管願います。

大阪でも育っていた

インドボダイジュ

安藤 萬喜男
坂崎 信之

ボダイジュ (菩提樹) については園芸春秋・第四一八号 (二〇〇〇・四) に鈴鹿会長が詳しく書いておられる。私達は熱帯性のインドボダイジュ (*Ficus religiosa* クワ科) が西宮市内で育っていることを報告 (一九九九・三) したが、園芸倶楽部会員の小野順子さんから「大阪市内にある私の母方の菩提寺にもインドボダイジュが育っています。」と教わったのである。

今年の春、その樹を拝見することができた。場所は天王寺区、市バスで上本町八丁目の停留所の側、光照山正祐寺の境内である。正門を入ると正面に大きく四方に枝を伸ばしたクスノキがある。敷石に沿って左に曲がるとその正面が本堂、その右側の庫裏の角にそのインドボダイジュはある。目指すインドボダイジュは寒い冬にも耐えていた。高さは五米位、多くの

葉は寒さの故か傷んではいないが、一部の葉は写真のように殆ど傷んでいないものもある。枝が枯れ下がっている様子もない。有名な遺幣局の通り抜けのサクラが満開になっている四月十九日のことである。熱帯原産のインドボダイジュはまだ新しい芽吹きを感じることはなかった。

「十年くらい前に、佛跡法要でスリランカに行き、当時の首相の特別の好意で約五十人にそれぞれ一株ずつの苗を記念として戴いたものです。」(軒先よりも高くなると落葉が極に詰まるので、伸びると枝先を縮めています。苗を植えた初めの頃は冬にはビニールを



正祐寺のインドボダイジュ
軒の高さで主幹を切縮めた樹姿
(2000・7・19)



左側の古い幹は以前に枯れたもの
その基部から新しく幹が立ち、
更に多幹状になっている



左半分は傷んでいない枝と葉 右半分は
寒さで傷んでいる状態 (2000・4・19)